



安田 佳世 (久比岐野)

上越市が目指す 通年観光とは何か



問／目指す「通年観光」の姿は何か。

答／当市の観光の課題は、イベント中心の季節型観光に偏っていることである。自然や歴史、文化などの地域資源をいかし、それぞれの魅力を磨き、高めることで、年間を通して多くの来訪者に楽しんでいただくことを目指したい。

問／高田・直江津・春日山の3つの拠点だけでない観光振興が必要だと思うがどうか。

答／観光振興を進めるに当たっては、13区や中山間地域も念頭に置き、まずは広域から集客が望める3つのエリアを施策の柱として取り組むことで、その効果が周辺に広がると考えている。各地域の資源の付加価値を高め、引き続き魅力を発信し、3つの拠点と相互作用を働かせたい。

問／市長のビジョンを地域に伝え、その上で地域との意見交換を進める必要があると思うがどうか。

答／まずは地域の皆さんが何をしたいかをお聞きし、考えていきたい。計画の大枠についてはお示ししているが、具体的な内容についてはお示しする段階ではないと考えている。

問／広域連携を行うことによる、観光客及び周辺自治体へのメリットは何か。

答／それぞれの自治体で足りない観光資源を補うことで、地域全体の魅力が底上げされ、より多くの方々に訪れていただける地域となる。



中土井 かおる (みらい)

「身寄りがない人」の 支援は大丈夫ですか？



問／ご家族や親族の援助が受けられない方は、入院や施設利用等で困難が生じる。安心して医療や介護を利用できるように地域共通のガイドラインを策定する必要があるのではないかと。

答／令和3年度に約30件の相談があった。令和4年7月の市民と市長との対話集会でも同様の意見があり、先進的な自治体の取り組みを参考に、ガイドライン策定に向けた検討を進めている。

「市民の歌」をご存じですか？

問／合併を機に「このふるさとを」という歌が誕生したが、浸透していないと感じる。市民の一体感を醸成するための取り組みが必要ではないか。

答／市民の歌がふるさとに愛着を
持ってもらおう契機となるよう、式典や各種イベントでの活用を改めて働きかけ、一層の啓発に努める。



登校できない子どもへの支援の充実を望む！

問／フリースクール等の利用が増えてきたが、必要な情報が確実に伝わる取り組みの状況は。

答／令和3年度の小・中学校での不登校児童生徒は260人。令和4年9月に、お子さんが学校に「行けない」、「行きたくない」そんな時に読んでほしいリーフレットを全保護者へ配布した。



木南 和也 (久比岐野)

うみてらす名立を 重点的に整備すべき



問／指定管理者が第三セクターから民間会社になったうみてらす名立について、市として達成したい成果をどのように設定しているのか。

答／うみてらす名立は、当市の重要な観光施設であり、名立区の地域振興の核となる施設であることから、指定管理者の指定に当たっては、プロポーザル方式で「サービス向上」、「経費の縮減」、「利用促進」、「適正な管理運営」の提案をいただいで選定したが、具体的な数値目標を定めたものはない。なお、指定管理者の株式会社BJは、社員に常に改善の意識を持たせる「意識改革」に重点を置いて、新たな魅力の創出に取り組んでいる。

問／建設から20年以上が経過し、老朽化しているため、改装や建て替えに向けた検討を進めるべきであると考えているがどうか。

答／施設は毎年、小規模な修繕を行っているが、老朽化や社会環境の変化に伴う利用者の嗜好の変化により、機能の再編を伴うリニューアルの検討が必要となっている。まずは、株式会社BJをはじめ関係者と協議を重ね、うみてらす名立の今後の将来計画を策定することとし、利用者数や地域経済に与える影響などの達成したい成果のほか、そのために必要となる施設機能の見直しや大規模改修を含め、検討を進めていきたい。